

平和・観光グループ

平和・観光グループの質問を始めます。

私たちのグループは、平和な世界の実現に向けて被爆地広島として何ができるのかや、観光客であふれる広島県にするにはどうしたらよいかを話し合いました。

このことについて、2つの質問をしたいと思います。

質問1 「平和への関心を高め、世界へ発信する広島県の実現」について

一つ目の質問は、「平和への関心を高め、世界へ発信する広島県の実現」についてです。

現在、全国の被爆者の平均年齢は85.58歳と高齢化が進んでいるとともに、被爆者数も昨年度から6,824人減少していることから、被爆の実相の継承が、より一層大きな課題となっています。その一方で、先日、新聞で「被爆者の講演会で聴衆が1人しか集まらなかった」という記事を見て、国民の平和への関心が薄れてきているのではないかと心配し、とても悲しい気持ちになりました。平和な世界の実現に向けて、被爆者の思いを後世に継いでいくことはとても重要であると、私たちは強く思います。

そこで提案です。被爆者が日本全国さらには世界で講演できる機会の充実を図るとともに、講演の様子を文章や動画に残し、SNSで発信してみてもどうでしょうか。平和への関心を高めるためには、実際に被爆者の生の声を聞いてもらうことの重要性は大きいと思います。また、それを記録に残すことで平和学習にも活用することができ、加えて若者が多く利用するSNSで発信することにより、次代を担う若者の平和への関心を高めることができると思います。

2つ目の提案は、「新たな平和学習のかたち」についてです。

昨年度の広島平和記念資料館の入館者数は、G7サミットの影響もあり、過去最高の198万人を記録しています。そのうち約34万人は小学生から高校生の修学旅行生であり、彼らに広島で平和についての理解を深めてもらい、修学旅行後に各地で平和を発信してもらうことは、とても意義のあることだと思います。

そこで提案です。修学旅行で広島を訪れる学生達と私たちが平和学習を通して交流する機会を作ってみてもどうでしょうか。同世代の私たちだからこそ、教える立場で

はなく同じ目線で一緒に考えることができ、お互いにとって、とても有意義な平和学習になると思います。

核兵器のない平和な世界の実現に向けて、被爆地広島だからこそできることをともに考えていきましょう。

答弁（知事）

まず、「被爆者が講演できる機会の充実とSNSでの発信」についてお答えします。

核兵器のない世界を築いていくためには、世界中に広島が経験した被爆の実相を伝え、核兵器の恐ろしさと悲惨さを理解していただくことが、非常に重要です。

しかし、被爆者の高齢化が進む中、被爆者の生の声を伝えていくことが次第に難しくなっています。

御提案のあった、被爆者の講演機会の充実や、その様子を記録して、SNSなどで発信する方法は、大変有効であると考えています。

このため、広島県では、G7広島サミットのような国際会議や、国内外の若者を対象とした平和について考えるイベントにおいて、被爆者の体験を聞く機会を設けています。

さらに、ウェブサイト上で、被爆者が被爆当時のことを紙芝居で語る様子を動画で紹介したり、毎年夏に実施しているおりづるキャンペーンで、被爆者の体験をSNSで発信しています。

今後も、広島市などと協力しながら、積極的に被爆者の生の声を伝え、またAIなどの新しい技術を活用して、被爆者の声を引き継ぐことにより次世代を担う皆さんの関心を高めていくとともに、将来にわたって平和の尊さについて発信していきます。

核兵器のない平和な世界を実現するため、一緒に行動していきましょう。

次に、「平和学習を通して交流する機会を作る」ことについてお答えします。

御提案のように、広島を訪れる修学旅行生と同世代の皆さんが平和学習を通して交流することは、平和についての学びを自分事として深めるだけでなく、他県の数多くの児童生徒の皆さんに平和について考えていただく機会となる、素晴らしい取組だと思えます。

県内では、広島を訪れる他県や海外の学校の児童生徒と、戦争や平和について意見を交流し、平和についての考えや理解を深めている学校もあります。

私たちも、こうした皆さんの活動を積極的に応援していきます。

皆さんも、平和な世界を実現していくために、自分たちに何ができるか、周りの友達と一緒に考えぜひ実行に移してみてください。

質問2 「よってみんないきてみんない広島県」について

二つ目の質問は「よってみんないきてみんない広島県」についてです。

最近、広島市周辺でよく外国人を含めた多くの観光客を見かけますが、一方でそこから離れた地域ではなかなか見かけない印象です。その理由として、広島県の有名な観光資源の多くが広島市周辺に集まっていることが挙げられます。それにより、観光客のうち約8割以上が宿泊せずに帰っていくのが現状です。広島市周辺以外の観光地にも訪れてもらい、周遊性を向上させることが重要であると思います。

そこで提案です。広島県のような公共交通機関を利用して、滞在しながら県内のいろいろな場所を巡る広域周辺観光ツアーを組み、前面に押し出してみてもどうでしょうか。このツアーに係る交通費や宿泊費等をツアー価格として通常料金よりも割引くことで、お得感が増すことから、多くのツアー利用者が見込めると思います。また、移動手段として様々な公共交通機関を利用することで、移動中も飽きさせない工夫を凝らすことができます。広島市以外の誇れる観光地をもっと知ってもらい、県全域が観光客であふれる広島県になってほしいです。

2つ目の提案は、「特産物を使った広島ならではの菓子のお菓子の製作」についてです。

最近、訪日外国人が過去最多レベルで増加しているというニュースを見ました。また、台湾での調査では、日本での買い物予算について、外国人観光客の約5割が10万円以上と答え、買いたいものとして最も多かった回答が「お菓子」です。手軽に購入でき、かつ日本らしさを感じられるお土産として、日本のお菓子は定番となっています。

そこで提案です。広島県の特産物を使った広島ならではの菓子のお菓子の種類をもっと増やしてみてもどうでしょうか。地元色や地域色の強いお土産は、とくにリピーターの訪日外国人に人気が高いと思います。「また広島を訪れたい」と思ってもらうきっかけとして、広島県の特産物を使った、広島県でしか購入できないオリジナルのお菓子の製作にもっと力を入れることで、広島県を訪れる外国人観光客の増加が見込めると思います。

答弁（商工労働局長）

まず、「広域周辺観光ツアー」についてお答えします。

国内外の多くの観光客に、県全域を訪れてもらうためには、県内各地に魅力的な観光プロダクトを取り揃え、それらを線でつなぎ、周遊性を向上させることが重要であると考えています。

このため、旅行会社や交通事業者等に国内外の観光客を対象とする公共交通機関を利用したツアーの販売を促しているところであり、現在、歴史的な町並みを今に残す大崎下島、「うさぎの島」として有名な大久野島など瀬戸内の島々を船で周遊するツアーや、広島市からバスで、緑豊かな溪谷を有する安芸太田町などを巡るツアーが実施されているところです。

引き続き、こうした取組により、公共交通機関を利用した新たな周遊ツアーの造成を促していくとともに、観光情報サイトやSNS等を活用して、積極的な情報発信を行っていくことで、県全域に観光客があふれる状況を作っていきたいと考えています。

次に、「広島県の特産物を使った広島ならではの菓子」については、観光庁が実施している「訪日外国人の消費動向」によると、訪日前に期待していたことでは、「日本食を食べること」が、また、最も満足した購入商品は「菓子類」がそれぞれ第1位となっており、御提案の「特産物を使った広島ならではの菓子の種類を増やすこと」は、外国人観光客のリピーター増加と広島への新たな誘客が期待できると考えています。

G7広島サミットが開催された昨年度は観光客や国内外マスメディア向けに

- ・牡蠣を使用したフライスナック
- ・はっさくを使用したのり天
- ・見た目がレモンそっくりで外はパリッと中はフワツとした新感覚スイーツ
- ・瀬戸内のカタクチイワシを使用したせんべい

など、多様な県民のアイデアにより県産の特産物を活用した新たなお菓子が開発され、定番化しているものも出てきています。

今後は、多彩な広島の食の魅力を磨き、伝える、「おいしい！広島プロジェクト」の一環として、新たなお菓子作りについては、

- ・お菓子づくりの体験、生産現場の見学などの観光プロダクト開発、
- ・観光プロモーションでの新たなお菓子の魅力発信

などに取り組むことによって、外国人観光客のさらなる誘客促進につなげていきます。